

社 会

社会科における評価のポイント



理論編

- 1 社会科の目標
- 2 社会科で育成する資質・能力
- 3 評価の観点

実践編

- 1 授業改善に向けて
- 2 指導計画・評価計画の作成
- 3 実践を通して明らかになったこと

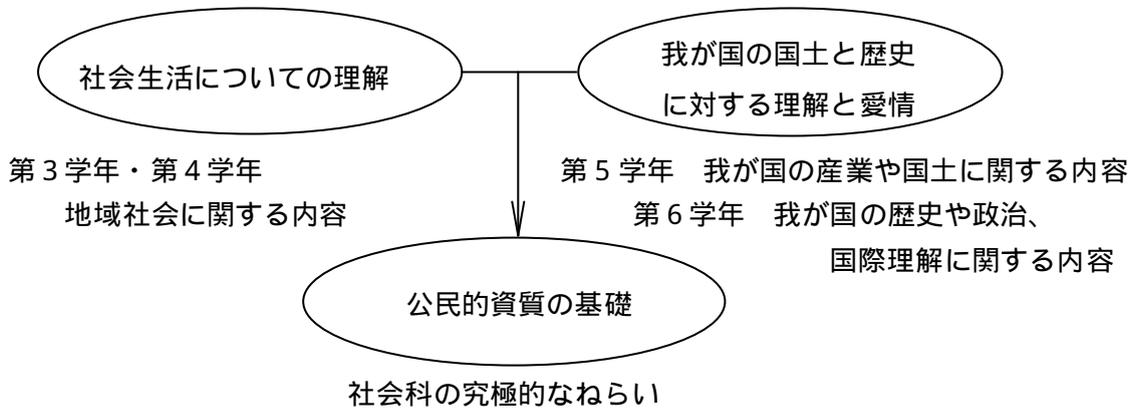
資料編

- 1 単元指導計画（指導と評価の計画）
- 2 学習指導案例
- 3 ワークシート例

理論編

1 社会科の目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。



2 社会科で育成する資質・能力

- (1) 社会的事象を多面的に考察し、公正に判断する能力や態度
- (2) 日本人としての自覚をもち、国際社会で主体的に生きる資質や能力

(平成10年7月の教育課程審議会の答申から)

↓ そのためには

網羅的で知識偏重の学習にならないようにするとともに、社会の変化に対応する能力や態度を育成する観点から、基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的・体験的な学習や問題解決的な学習など児童生徒の主体的な学習を一層重視する。(学習指導要領社会科改訂の趣旨から)

3 評価の観点

(社会科の評価の課題)

これまでの社会科の評価は、覚えている知識・理解の量によって相対的に評価する傾向が見られた。現在の目標に準拠する評価においても、各観点別の評価は、知識・理解や子どもの文章力に影響されやすく、子どもの学びの過程を具体的に捉え、指導に役立つ評価の在り方が求められる。

- 観点別評価において児童のどんな姿を捉えるのか? -

社会的事象への関心・意欲・態度
観察・資料活用の技能・表現

社会的な思考・判断
社会的事象についての知識・理解

社会的事象への関心・意欲・態度

社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べることを通して、社会の一員として自覚をもって責任を果たそうとすることです。

評価の手順

学習活動における
具体的評価規準例

(単元名「ごみのしまつと活用」第4学年)

ごみの処理にかかわる対策や事業に関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究している。

地域の人々の健康な生活の維持と向上のために地域の人々が工夫や努力、協力をしていることの理解に基づいて、自分も地域社会の一員として、進んで協力しようとする気持ちをもとうとしている。

【関心】



評価規準のポイント

「関心をもつ」という文言が使われています。関心をもつというのは、これから学習する内容に対して、興味、驚き、疑問、問題意識をもつということです。このような状況は、単元の入り口での評価になります。

【意欲】



「意欲的に調べる」という文言が使われています。意欲は、児童が、見学や調査などの学習活動に取り組んでいる様子で判断します。このような状況は、単元の途中での評価になります。

【態度】



「自覚」、「気持ち」、「心情」をもとうとするという文言が使われています。児童が、単元で学んだことを社会生活に生かそうとする気持ちをもっているかどうかで判断します。このような状況は、単元の終わりでの評価になります。

(児童の具体的な姿)
チェック項目

「すごいな」、「ふしぎだな」、「なぜだろう」、「調べてみたいな」という発言や記述をチェック項目として評価します。

「熱心に調べている」、「ねばり強く取り組んでいる」などの行動をチェック項目として評価します。

「～することが大切だと思う。」、「進んで～しようと思う。」などの発言や記述をチェック項目として評価します。

評価方法

観察・行動観察
発言・発言の内容分析
記述・ノート、学習カード、自己評価など

社会的な思考・判断

社会的な事象から学習の問題を見いだして追究・解決し、社会的な事象の意味を考え、適切に判断することです。

評価の手順

学習活動における
具体の評価規
準例

(単元名「ごみのしまつと活用」第4学年)

ごみの処理にかかわる対策や事業について問題意識をもち、学習の見通しをもって、自分なりに追究している。

調べたことをもとに、ごみの処理にかかわる対策や事業は地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考え、適切に判断し、学習の問題を解決している。

【思考】

評価規
準のポ
イント

「問題意識をもち、学習の見通しをもって、自分なりに追究している」という表現がされています。問題解決に向けて、何をどのような方法で調べるのかといった見通しをもっているのかどうか、また、自分なりの考えや予想に照らし、考えながら追究しているかを評価します。

【判断】

「適切に判断し、問題を解決している」という表現がされています。調べたことをもとに考え、学習の問題(理由、特色、工夫、関連など)について、よりよい解決をしているかを評価します。

チ
ェ
ッ
ク
項
目
(
児
童
の
具
体
的
な
姿
)

新しい情報を基に関係や法則性などを思いついたり説明したり、また、他の意見を参考に付け加えたり、修正しながら、次第に考えを深めている状況の評価します。

「～は、～ではないだろうか。」

「～は、～に関係しているようだ。」

「資料から考えて、～のために・・・などの工夫をしているのではないだろうか。」

「～さんが言うように、・・・も考えられる。」(どのように考えが変化していったかを記録する)

事実を基に関連づけや理由を考えて、(判断した根拠を明確にして)学習の問題をよりよく解決している状況の評価します。

「～に対して～をしているのは、***という理由からだ。」

「～に～という特色があるのは、***だからだ。」

「～に対して～をすることによって***している。」

「～と～は、***でつながっている。」など

評
価
方
法

発言・交流、討論、ディベートなどの発言の内容分析

記述・ノート、学習カード、ワークシート、作文などの記述分析

観察・資料活用の技能・表現

社会的事象を的確に観察調査したり各種の資料を効果的に活用したりするとともに調べたことを表現することです。

評価の手順

学習活動における
具体の評価規
準例

(単元名「ごみのしまつと活用」第4学年)

ごみの処理と自分たちの生活や産業とのかかわりを見学したり調査したりして具体的に調べている。

ごみの処理にかかわる対策や事業が計画的、協力的に進められている様子を見学したり調査したりして具体的に調べている。

見学、調査した過程や結果を分かりやすく表現している。

【技能】

評価規
準のポ
イント

「見学したり調査したりして具体的に調べている」、「資料を効果的に活用したり」という表現がされています。問題の解決に必要な情報を集め、選び、活用する力が付いているかどうかを児童の学習状況から把握します。

【表現】

「調べた過程や結果を目的に応じた方法で表現している」という表現がされています。結果だけではなく、調べた過程を目的に応じた方法で、分かりやすく、工夫して表現しているかどうかを評価します。

チ
ェ
ッ
ク
項
目
(
児
童
の
具
体
的
な
姿
)

調べ学習や見学、観察場面において、「グラフやパンフレットなど必要な資料を集めている」、「集めた資料から状況や変化などを読みとっている」、「見学などで様子を具体的に観察し学習カードに記録している」、「聞き取り調査の質問を考え準備している」、「集めた情報を自分の問題解決に結びつけて整理している」などの状況を評価します。

小見出しやイラスト、グラフ、地図、年表を活用したりして、学習の問題の解決に結び付けて調査した過程や結果を分かりやすく表現しているかどうかを評価します。資料をそのまま引用するのではなく、見付けたこと、気付いたこと、分かったこと、疑問などを自分の言葉でまとめているかどうかを評価します。

評
価
方
法

記述・学習カード、ノート

作品・レポート、掲示物、プレゼンテーションなど

社会的事象についての知識・理解

社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解していることです。

評価の手順

学習活動における
具体の評価規準例

(単元名「ごみのしまつと活用」第4学年)
ごみの処理と自分たちの生活や産業とのかかわりが分かっている。
ごみの処理にかかわる対策や事業は計画的、協力的に進められている
ことが分かっている。

【知識・理解】

評価規準の
ポイント

「様子や働き、特色などが分かっている」という表現がされています。ある社会的事象について、意味のある知識として持っていることや社会的事象の存在を知っているかどうかで判断します。また、「かかわりが分かっている」という表現がされています。それぞれの知識の相互の関連を具体的に理解していることや社会的事象の(因果)関係を知っているかどうかで判断します。

チェック項目
(児童の具体的な姿)

「 とは、～ということです。」「～には、 というものがあります。」などの発言や記述で評価します。断片的な知識だけを答えさせることのないようにすることが大切です。
「 によって、～になった。」「 は、～に役立っています。」などの発言や記述から関連や関係を理解しているか評価します。社会的事象の意味理解を具体的に分かっているかどうか大切です。

評価方法

発言・導入において既習学習を想起させる、まとめにおいて確認するための発問に対して的確に答えているかなど
記述・テスト、ワークシートなど

「学習活動における具体の評価規準例」は、国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」から引用

実践編

1 授業改善に向けて ポイント

単元の学習の構成を考えた上で、各時間の指導と評価を計画。
 単元の中に、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を適切に配置。
 一人一人の興味や課題に応じて、調べ方やまとめ方など個に応じた学習活動が展開できるように、
 複数の学習活動を用意。
 身近な地域を学習対象として直接観察したり調査したり、教育資源（施設、人材等）を活用。
 評価計画に基づいて、児童の活動状況を確認し援助することにより、指導と評価の一体化、個に
 応じた指導が可能。

2 指導計画・評価計画の作成

(1) 単元の構成

単元名「2. わたしたちのくらしと日本国憲法」（東京書籍 新しい社会 6年下）

時間	指導内容	活動内容	学習活動における具体的評価規準等		
			(観点評価規準 評価の方法)	十分に満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
1	町の福祉ウォッチング	・自分たちの町でどのような福祉が行われているかを調べる計画を立てる。	(関意態)：自分たちの町でどのような福祉が行われているのか関心を持ち、進んで調べようとしている。発表・計画カード	福祉に対して憲法はどのような働きをしているのかという問題意識をもって調べようとしている。	身近な施設や自分の生活とのかかわりから、町で行われている福祉について関心をもてるように、個別に指導・支援する。
2	市の福祉政策と憲法の関係調べる	・日本国憲法の基本的な原則を調べ、市の福祉政策と憲法の関係を話し合う。	(知理)：市の福祉政策と憲法とのかかわりが分かっている。発表・ワークシート	福祉の町づくりは、国や府、民間の人たちが協力し合って実現できることに気付いている。	教科書や資料集の写真や図と児童が実際に調べたことを結び付けながら、理解に応じて補説する。
3	基本的人権を大切にす市の考えを聞く	・資料を活用し、基本的人権を尊重する考え方が、政治にどのように反映されているかを図や表に整理する。	(技表)：くらしを支える政治の働きを、図や表にまとめている。行動観察・発表用紙	自分の問題意識に沿ったテーマを設定して、調べたことを整理し、分かりやすく表現している。	まとめの活動に取り組めない児童に対しては、まとめ方や表現の仕方などを得意な方法でよさが生かすように指導する。
4	政治と権利・義務の関係を話し合う 《本時》実践編参照	・憲法に記された国民の権利と義務について調べ、政治と権利・義務の関係を話し合う。	(思判)：みんなの願いを実現する政治と権利・義務の関係について考えている。ワークシート	政治には参政権と納税の義務が大切であるということを国民の態度とかかわって考えている。	資料集等にあるそれぞれの権利と義務について、自分自身とどのようにかかわっているかを補説する。
5	市の政治から国民主権を調べる	・参政権と国民主権の関係について調べ、国民主権がどのように実現されているかを話し合う。	(思判)：主権をもつ国民が、国の政治にどのようにかかわっているか考えている。ワークシート	参政権は国民主権の表れであり、民主政治にとって極めて重要なことを考えている。	国民が国の政治にどのようにかかわっているか、一つ一つについて具体的に説明する。
6	平和な社会を築く	・日本国憲法に込められた平和への願いを調べ、その考え方をまとめる。	(知理)：日本国憲法の平和主義の考え方を理解している。発表・ワークシート	歴史の学習も踏まえて、平和主義の大切さを理解している。	日本国憲法憲法前文について補説し、前文を読んだ感想をまとめるように指導する。
7	「平和学習の街ヒロシマ」を訪ねて	・「平和学習の街ヒロシマ」の資料を読み、平和の大切さについて話し合う。	(関意態)：平和の大切さに関心を持ち、進んで話し合いに参加している。発表	資料を踏まえて、具体的に平和の大切さについて、自分の考えをまとめている。	教科書だけでなく、ビデオや写真等を提示し、感想をまとめさせる。
8	憲法の内容を実現する	・憲法の内容を実現するために大切なことを話し合い、自分たちにできることをまとめる。	(関意態)：自分たちでできることを考え、その実現への意欲をもっている。自己評価カード	身近な問題から自分自身の問題として考え、実際に実現可能なことを考えている。	憲法の考え方を一つ一つ振り返らせ、大切なことは何か考えるように助言する。

日本国憲法にはどのようなことが定められているのでしょうか。
 単元を通しての学習課題、学習計画を考える。

基本的人権について調べよう。
 調べ学習をする。

権利と義務、国民主権について考えよう。
 問題解決的な学習をする。

平和主義について調べよう。
 調べ学習をする。

憲法の内容を実現するためにできることを考えよう。
 自分の問題として考える。

(2) 1時間の指導と評価の流れ

本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具	評価
導入	権利と義務について興味をもたせる。 本時のめあてを確認させる。	個別	・ワークシートの事例が権利として認められているかどうかを考える。 ・本時のめあてを知る。	・権利として認められているかどうかを自己決定させ、本時の課題への学習意欲をもたせる。 ・本時のめあてとともに、学習の流れを知らせる。	ワークシート	
展開	みんなの願いを実現する政治をするために大切な権利と義務について考えよう。					
	利と義務について理解させる。	一斉	・調べ学習で権利と義務について調べたことを発表する。	・前時の最後に学習課題を与え、資料集などをもとに調べさせておく。	権利と義務の短冊	
	参政権について考えさせる。	個別 一斉	・みんなの願いを実現する政治をするために特に大切だと思う権利を選び理由を考える。	・どの権利もなくてはならないものであるが、特に国民が政治に参加することが権利を守ることになることに気付かせる。	ワークシート	
	納税の義務について考えさせる。	個別 一斉	・もしも納税の義務がなければどうなるか考える。	・権利も大切であるが、その権利を実現させるためには、義務も大切であることに気付かせる。	ワークシート	(思考・判断)政治と権利・義務の関係について考えている。発言・ワークシート
まとめ	政治と権利・義務の関係をまとめさせる。	個別	・政治と権利・義務の関係についてまとめる。	・友だちの意見も参考に、みんなの願いを実現する政治と権利・義務の関係を自分なりにまとめさせる。	ワークシート	(思考・判断)政治と権利・義務の関係について考えている。ワークシート

【導入】

- ・机間指導で、ワークシートに記入できていない児童に助言。
- ・挙手をさせ全体の傾向を把握する。
- ・本時のめあてを確認する。

【展開】

- ・調べてきたことを発表させ、個々の権利と義務について具体的に補説する。



- ・机間指導でワークシートをチェックし、個別に指導する。
- ・発言内容をもとに、思考・判断の評価を行う。

【まとめ】

- ・ワークシートの記述をもとに、思考・判断の評価を行う。

3 実践を通して明らかになったこと

(1) 学習活動における具体的評価規準の実際

【本時】

時間	指導内容	活動内容	(観点)評価規準 評価の方法	十分に満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
4	政治と権利・義務の関係を話し合う		(思判)：みんなの願いを実現する政治と権利・義務の関係について考えている。ワークシート	政治には参政権と納税の義務が大切であるということ国民の態度とかがわかって考えている。	資料集等にあるそれぞれの権利と義務について、自分自身とどのようにかかわっているかを補説する。

【評価規準に対して「おおむね満足できる状況」B】の状況

「政治と権利・義務の関係について考えている」

みんなの願いを実現する政治をするためには税金が必要であり、そのお金がうまく使われるために参政権が大切であることを考えている。

ワークシート記述例

・税金を払うのはいやだけど、みんなの暮らしを豊かにするためにお金を出し合っていることがわかった。また、その使い方を決める代表者は選挙で選ばれるので、参政権は大切な権利だと思う。

【評価規準に対して「十分満足できる状況」A】の状況

「政治には納税の義務と参政権が大切であるということを国民の態度とかかわって考えている。」

国民の義務として納税の義務がある理由や参政権をしっかりと行使するために政治に関心をもつことの大切さを感じている。

ワークシート記述例

・みんなの願いを実現する政治をするために納税の義務は大切であり、きちっと税金を納めなければならない。また、その税金がうまく使われるためには、参政権が大切だ。日頃から新聞を見たりして政治のことをよく知ろうと思う。

【努力を要する状況への手立て】の状況

なぜ、税金を納めなければならないのかを理解できていない。

国会の働きや選挙の仕組みが分かっていない。

「それぞれの権利と義務について、既習学習をもとに自分自身とどのようにかかわっているか補説する。」

ワークシート記述例

・なぜ、税金を払わなければならないのかな。集まったお金は、何に使っているんだろう。

(2) 実践のまとめ

単元構成を考える

小単元を一つのまとまりと考えて、学習や評価を考えることが大切です。単元の入り口で、単元に対する興味と単元を貫く問題をもち、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を適切に配置することで、子どもが主体的に学習に取り組むようになります。

1時間ごとの指導と評価の一体化

1時間の中で、子どもたちが行うそれぞれの学習活動に対して、机間指導等で状況をその都度把握しながら援助することによって、指導と評価の一体化が可能になり、また、個に応じた指導をすることができます。

具体的な児童の姿を想定し評価することの重要性

社会科の観点別評価は難しいと言われますが、具体的な児童の姿を想定したものをチェック項目として準備することで、より客観的な評価が可能となります。

資料編

1 単元指導計画（「指導と評価の計画」）

単元名 「2.わたしたちの暮らしと日本国憲法」(東京書籍 新しい社会6年下)

時間	指導内容	活動内容	学習活動における具体的評価規準等		
			(観点)評価規準 評価の方法	十分に満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
1	町の福祉ウォッチング	・自分たちの町でどのような福祉が行われているかを調べる計画を立てる。	(関意態):自分たちの町でどのような福祉が行われているのか関心を持ち、進んで調べようとしている。発表・計画カード	福祉に対して憲法はどのような働きをしているのかという問題意識をもって調べようとしている。	身近な施設や自分の生活とのかかわりから、町で行われている福祉について関心をもてるように、個別に指導・支援する。
2	市の福祉政策と憲法との関係を調べる	・日本国憲法の基本的な原則を調べ、市の福祉政策と憲法との関係を話し合う。	(知理):市の福祉政策と憲法とのかかわりが分かっている。発表・ワークシート	福祉の町づくりは、国や府、民間の人たちが協力し合って実現できることに気付いている。	教科書や資料集の写真や図と児童が実際に調べたことを結び付けながら、理解に応じて補説する。
3	基本的人権を大切にする市の考えを聞く	・資料を活用し、基本的人権を尊重する考え方が、政治にどのように反映されているかを図や表に整理する。	(技表):くらしを支える政治の働きを、図や表にまとめている。行動観察・発表用紙	自分の問題意識に沿ったテーマを設定して、調べたことを整理し、分かりやすく表現している。	まとめの活動に取り組めない児童に対しては、まとめ方や表現の仕方などを得意な方法でよさが生きるように指導する。
4	政治と権利・義務の関係を話し合う 《本時》実践編参照	・憲法に記された国民の権利と義務について調べ、政治と権利・義務の関係を話し合う。	(思判):みんなの願いを実現する政治と権利・義務の関係について考えている。ワークシート	政治には参政権と納税の義務が大切であるということを国民の態度とかかわって考えている。	資料集等にあるそれぞれの権利と義務について、自分自身とのかかわっているかを補説する。
5	市の政治から国民主権を調べる	・参政権と国民主権の関係について調べ、国民主権がどのように実現されているかを話し合う。	(思判):主権をもつ国民が、国の政治にどのようにかかわっているか考えている。ワークシート	参政権は国民主権の表れであり、民主政治にとって極めて重要であることを考えている。	国民が国の政治にどのようにかかわっているか、一つ一つについて具体的に説明する。
6	平和な社会を築く	・日本国憲法に定められた平和への願いを調べ、その考え方をまとめる。	(知理):日本国憲法の平和主義の考え方を理解している。発表・ワークシート	歴史の学習も踏まえて、平和主義の大切さを理解している。	日本国憲法憲法前文について補説し、前文を読んだ感想をまとめるように指導する。
7	「平和学習の街ヒロシマ」を訪ねて	・「平和学習の街ヒロシマ」の資料を読み、平和の大切さについて話し合う。	(関意態):平和の大切さに関心を持ち、進んで話し合いに参加している。発表	資料を踏まえて、具体的に平和の大切さについて、自分の考えをまとめている。	教科書だけでなく、ビデオや写真等を提示し、感想をまとめさせる。
8	憲法の内容を実現する	・憲法の内容を実現するために大切なことを話し合い、自分たちにできることをまとめる。	(関意態):自分たちでできることを考え、その実現への意欲をもっている。自己評価カード	身近な問題から自分自身の問題として考え、実際に実現可能なことを考えている。	憲法の考え方を一つ一つ振り返らせ、大切なことは何か考えるように助言する。

2 学習指導案例

【指導案例1】

単元名 「2.わたしたちの暮らしと日本国憲法」(東京書籍 新しい社会6年下 P.18)

本時の目標

・みんなの願いを実現する政治と権利・義務の関係について考える。

(思考・判断)

本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等	評価
導入	権利と義務について興味をもたせる。 本時のめあてを確認させる。	個別	・ワークシートの事例が権利として認められているかどうかを考える。 ・本時のめあてを知る。	・権利として認められているかどうかを自己決定させ、本時の課題への学習意欲をもたせる。 ・本時のめあてとともに、学習の流れを知らせる。	ワークシート	
展開	みんなの願いを実現する政治をするために大切な権利と義務について考えよう。					
展開	権利と義務について理解させる。	一斉	・調べ学習で権利と義務について調べてきたことを発表する。	・前時の最後に学習課題を与え、資料集などをもとに調べさせておく。	権利と義務の短冊	
展開	参政権について考えさせる。	個別 一斉	・みんなの願いを実現する政治をするために特に大切だと思う権利を選び理由を考える。	・どの権利もなくてはならないものであるが、特に国民が政治に参加することが権利を守ることになることに気付かせる。	ワークシート	
展開	納税の義務について考えさせる。	個別 一斉	・もしも納税の義務がなければどうなるか考える。	・権利も大切であるが、その権利を実現させるためには、義務も大切であることに気付かせる。	ワークシート	(思考・判断) 政治と権利・義務の関係について考えている。発言・ワークシート
まとめ	政治と権利・義務の関係をまとめさせる。	個別	・政治と権利・義務の関係についてまとめる。	・友だちの意見も参考に、みんなの願いを実現する政治と権利・義務の関係を自分なりにまとめさせる。	ワークシート	(思考・判断) 政治と権利・義務の関係について考えている。ワークシート

【指導案例2】

単元名 「2.わたしたちのくらしと日本国憲法」(東京書籍 新しい社会 6年下 P.18)

本時の目標

- ・みんなの願いを実現する政治と権利・義務の関係について考える。

(思考・判断)

本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材 教具等	評価
導入	税金について考えさせる。 本時のめあてを確認させる。	一斉	・税金を払うことについての感想を発表する。 ・本時のめあてを知る。	・消費税など身近な生活から考えさせる。	教科書 P.9 税金についての資料 ワークシート	
展開	みんなの願いを実現する政治をするために大切な権利と義務について考えよう。					
	納税の義務について考えさせる。 参政権について考えさせる。	一斉 個別 一斉	・なぜ、納税が義務になっているのか理由を考える。 ・税金の使い道はどのように決まるか思い出す。 ・税金がうまく使われるために、国民としてどうすればよいか話し合う。	・国民の義務について簡単に知らせ、みんなの願いを実現するために納税の義務があることを理解させる。 ・教科書「1 みんなの願いを実現する政治」を振り返らせる。 ・選挙に行くことだけでなく、政治に関心をもつことなど幅広く考えさせる。	資料集 ワークシート	
まとめ	政治と権利・義務の関係をまとめさせる。	個別	・政治と権利・義務の関係についてまとめる。	・友だちの意見も参考に、みんなの願いを実現するための政治と権利・義務の関係を自分なりにまとめさせる。	ワークシート	(思考・判断) 政治と権利・義務の関係について考えている。ワークシート

3 ワークシート例

社会科ワークシート

名前 ()

「政治と権利・義務の関係を話し合う」

次のことは、「権利」として認められているでしょうか？

- 1、家では、お父さんがお母さんより先にごはんを食べたり、お風呂に入ったりする。 ()
- 2、会社の社長と意見が合わないので、働いている人がみんなで団結して運動をする。 ()
- 3、Aさんの家では、先祖からB宗教を信じているが、AさんはC宗教を信じている。 ()

政治にとって特に大切だと思う「権利」を一つ選び、その理由も書こう。

権	
---	--

もしも、「納税の義務」がなければどうなるか、考えてみよう。

--	--

政治と権利と義務の関係について考えたことをまとめよう。(図をかいてもよい)

--	--

社会科ワークシート

教科書 P.18 「政治と権利・義務の関係を話し合う」

名前 ()

税金について思っていることを書こう。

税金がうまく使われるために、国民としてどうすればよいか考えてみよう。

政治と権利と義務の関係について考えたことをまとめよう。(図をかいてもよい)

先生から

